

*庭師？世界を歩く＜アルプス編＞

2015年7月5日～7月17日、少々、大げさですがヨーロッパアルプスを巡ってきました。主なルートは、スイスのルツェルンをスタートし西北イタリア～フランス東部～インターラーケン(スイス)まで。マッターホルン、モンブラン、エンゲフラウを巡るコース。7月5日成田前泊。7月6日、オランダ・アムステルダム経由でスイスのチューリッヒへ。土地柄、ドイツ訛、ミニキ、カラマツ、カフェ類、西洋トチキが目立っていました。

*第1日目（7月6日）

7月6日(月)、成田10:30発のKLMでアムステルダム経由チューリッヒ着19:20(現地時間)。それからホテルへ。ホテル到着は21:30(現地時間)。成田を出てからホテル着まで19時間(時差-7時間)の移動。チューリッヒ空港の建物を出た途端、日本を・・・。ムツとした空気。なんと、日中の気温が35度だったとか。成田起床がAM5:00だったので、23時間30分の間、ほとんど睡眠無。眠いのなんの・・・。その上この気象。避暑のつもりが・・・。しかも、後一週間は続くだろうとのガイトさんの弁。好天は望むところ、しかしこの気温、何とかならないか？で、第1日目は無事過ぎました。

*第2日目（7月7日）



写真上左：アルプナッハシュタート駅

上右：ピラトゥス山頂と登山電車

右：先行する登山電車と軌道

6時起床。今日から本格的な観光へ。午前中はルツェルン郊外のピラトゥス山へ・・・。バスで山麓駅のあるアルプナッハシュタート駅へ・・・。世界一急勾(勾配率480パーミル)と言われるだけあって、ホームからすでに急勾配。1889年に開通したこの鉄道は、世界で唯一の、特殊なラックレール式の登山電車。線路中央に横向きの二本のラックが・・・。早速、乗り込み、頂上へ・・・。

今日は、観光客も多く、次々に発車。急勾配の線路を



ツクリと・・・。先行電車を後ろから一枚。この山、周囲の山とは異なり、ゴツゴツした岩山。

ピラトゥス・・・。キリストに死刑を宣告したローマ総督の名前だそうです。なぜここに？ピラトゥスの死後、彼の魂が居場所を求めて各地をさまよった後、ここに落ち着つき、崇り伝説もあったとか・・・。登ると禍が・・・。

頂上には4か所に展望台。その中で最も高い展望台(2118m)にトライ。崖っ縁を急勾配で上る通路。なにせ高所恐怖症の小生、帰りを想像すると・・・。途中で引返し他のルートへ・・・。ピラトゥス・クムからは登ってきた草原と遠くにはフィアヴァルトシュテッター湖が・・・。

ハイキングコースでは、こんな風景も・・・。暑さのせいでしょうか、岩陰にアチラコチラに数匹単位で休息中？カマラに向かって、「それ、なあ～に、食べれないの？」でしょうか？

写真の花は、ハイキングコース散策中、コース脇に咲いていました。

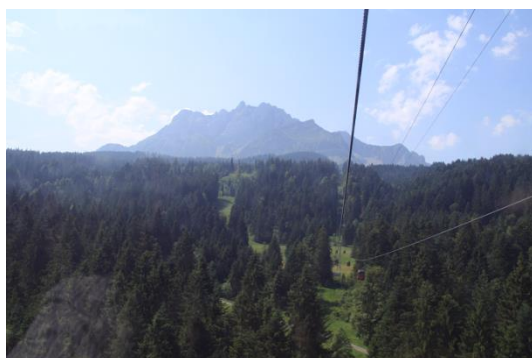


写真上：ハイキングコースにて



写真上左：トウス・アルピヌス(マメ科ミヤコグサ属)／中：アレリア・ビフロラ(ナデシコ科ハツツジ属)

／右：ドロコム・クルシ(キ科ドロコム属)



写真上左：ピラトゥス山(ロープウェイにて)／上右：クリエンス駅近くの民家(ロープウェイにて)

帰りはロープウェイで反対側のクリエンスへ下山。山の写真は、ゴンドラから見たピラトゥス山。住宅の写真はクリエンス駅近くで、ゴンドラの中から一枚。住んでいる方には申し訳ありませんが、内緒で・・・。スイ

スに入って感じられるのは、どこの庭も解放的かつ芝生。積雪も一因とは思いますが、日本のように、砦のようにフェンスで敷地を取り巻く様子は・・・

午後は市街に戻って散策とシティ・トレインでのユツリとした観光。それにしても、昨日に続いて熱〜いこと。日陰沿いに散策する始末。最初にルツェルンのシボルム、カール橋へ・・・かつてはシュプロイヤ橋と



写真上左：カール橋／上右：シュプロイヤ橋、
／下左：ゼー橋から見たホフ教会

ともに湖上の城壁。市街の湖岸を取巻いていた
そうです。1333年に完成。木造の橋としては
ヨーロッパ最古。1993年に火災が・・・全焼では
なかったようで、焼けたところも今は修復。

シュプロイヤ橋。1408年完成の木橋。西からの

侵入を防ぐ城壁の一部だとか・・・。

ホフ教会。建立は8世紀ですが、17世紀に消失し、その後には再建されたルネサンス様式に・・・。中には1500年頃の作といわれているマリアの祭壇と、4950本のパイプを持つパイプオルガンが素晴らしい
そうですが・・・。

その後、シティ・トレインでアチチ・・・今のところ時差ボケも感じず？・・・。明日はどうでしょうか？

*第3日目（7月8日）

今日はイタリア国境近くのロルンへ。昨夜半は雷雨。雨が窓ガラスを叩く音で眠りを覚まされましたが、
また一寝入り。ルツェルンからベルリンツォーナまでウィリアム・テル特急の船と鉄道で車窓観光。途中、サン・ゴット
ルト峠に掘られたトンネルを通過。

サン・ゴットルト峠(2108m)。スイスとイタリアを結ぶ重要な峠。交通路として用いられるようになったの
は13世紀後半？比較的新しい。スイスとイタリアを結ぶ重要な峠としては、1800年にポレヴォも越えた
といわれるグラン・サン・バルナール峠(2469m)が有名。

ウィリアム・テル・・・。ご存知の弓の名手。ただし伝説的な人物。実在したかどうかは今でも不明だ
そうです。スイスの人たちは実在したと信じて疑わないとか・・・



写真上左：フェリーにて／上左：湖岸の住宅／下：サンゴッタルトトンネル手前のループ

ウィリアム・テルの名前を冠した鉄道、始発のルツェルンからフェリーまでは船でフィアヴァルトシュテッター湖を・・・。下船後、鉄道に乗換え、ゴッタルトトンネルを抜けてバリンツォーナへのエキゾチックな構成。

乗船後、天気は徐々に回復。フェリーに着くころには青空が・・・。鉄路では途中4か所にループトンネル。トンネルの中ではループしている感覚が無いとの感想に、乗務員嬢が、コンパスを・・・。確かに、刻々と方位が変化。それにしても1882年に開通したにしては建設技術の高さに驚かされました。来年には、この下に世界最長(57km)のトンネルが開通予定だそうです。たぶん、ループも通り納めかも・・・。渓谷美の鑑賞も・・・。利便さとの引換えとは言え観光客にとっては少々不満。

バリンツォーナでは世界遺産の古城めぐり。古来、交通の要衝だった地だとか・・・。3つの城と城壁は2000年に世界遺産に。



写真左上：カステルグランデから見たモンテ・ベッロ城(中腹)とサツ・コルバロ城。
／右上：サツ・コルバロ城から見たカステルグランデ



写真上左：モンテ・ベッロ城

／上右：市街から見たモンテ・ベッロ城(下側)とサツ・コルバロ城(上側)

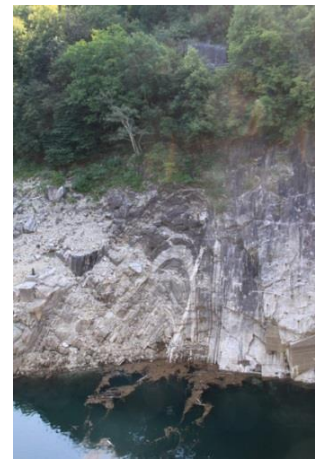
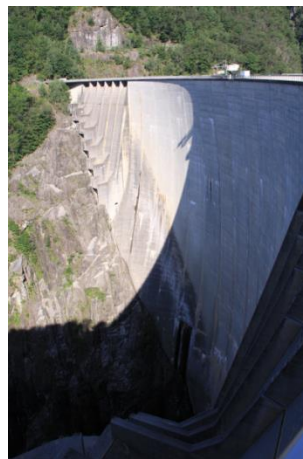
まずは市内観光を兼ねてカステルグランデ(大きい城)へ。その後ミトレインに乗ってサツ・コルバロ城からモンテベッロ城へ・・・カステルグランデとモンテベッロ城とは城壁で繋がっていたとか・・・それを偲ばせる城壁の一部も残っていました。

カステルグランデ、他の二つの城と違い、広い空間を取り巻くように城壁などが・・・他の城は、まるで出城か砦。所狭しと、建物の周りを城壁が・・・二つの城は市街から見ると、まるで丘全体が要塞？

ちなみに、サツとは岩山を意味するそうです。今夜はバスで約30分のカッパ泊。

*第4日目(7月9日)

今日は、スイスで最後の秘境と言われ、「緑の水」という意味のベルサス谷へ・・・この地域、外界?とは隔別した世界だったそうです。近年まで、谷に入るには、特別の許可が必要だったとか。そのため、独自の文化・風習を受け継いでいる地域だそうです。カッパの街のすぐ近くから谷間になります。こんなに近い場所にと・・・。



写真上左：ベルサスダム／上右：褶曲模様

最初はベルサスダム。堰堤の高さ220m(黒部ダムは186m)、ヨーロッパで一番高いダムだそうです。007が飛び降りた場所。ご覧になった方も多いのでは。バンジージャンプ台もありました。ちなみにバンジージャンプ発祥の地はニュージーランドだそうです。高所恐怖症の小生は写真を撮るのが精一杯。ダム湖岸で見かけた褶曲模様もありました。この谷が、かつての激しい造山活動でできた証しだそうです。

赤い花はダム付近にある売店で見かけました。当初、なかなか名前が思い出せなくて・・・結局、帰国してから・・・。



写真上左：ニューギニアインパチエンス(ツリフネ科ツリフネ属) / 上右：コッポ村

さらにバスで上流へ・・・。谷向こうの山肌に小さな集落が・・・。コッポ村。2013年現在、住人13名。スイで一番小さな村だそうです。ところがこの集落、石造りの建築技法に特徴があり、建築の世界では有名だそうです。ただし、この村には橋を渡って徒歩でしか・・・

さらに上流のラヴェツ村へ。ここにはエメラルド・グリーンのバルサス川にかかる、17世紀に造られた石



造りのサティ橋(メネ橋・ローマ橋)が・・・。

写真上左・右：サティ橋

下を流れる清流、本当に綺麗。川底までスクリ。スキューバダイビング教室も開かれていました。水中では、綺麗な縞模様の岩肌が観られるとか・・・。残念ですが、そこまでは・・・。

川を遡ってブリオーネ村へ。こじんまりした、見落とししてしまいそうな小さな村。この村にも教会が・・・。マドンナ・デル・アストン教会です。古い壁画もありました。

ブリオーネ村を後にして最奥にあるソルニョ村へ・・・。

ここも石造り中心の集落。花が飾られ、青空に映えていました。村全体が花に包まれている



(写真上左：マドンナ・デル・アストン教会と壁画(右))

ような美しく、素朴な感じの村落でした。その中に、珍しい刈を見つけました。青空に映えて、一段と・・・



写真上左：教会 / 中・右：リュウム・ブルビフェルム(ユリ科ユリ属)
/ 下左：サルスベリ(ミソギ科サルスベリ属)の街路樹 / 下右：ヴァイスコンテ城

カルの街に帰って、市街散策に・・・。ベルサの谷間にいる間は、あまり感じなかった暑さですが・・・。市街散策は、日陰を選んで・・・。それにしても暑～い。

ヴァイスコンテ城。今は考古学博物館間として利用されているそうです。

宿泊ホテルのアプローチでこんなサルスベリを・・・。樹幹の頭に小枝を集中させた剪定。奈良にも街路樹



としてサルスベリを植栽している場所もありますが、通常、樹幹の左右に枝を張らせ、その先に小枝を作る容姿。スイスに入ってアチアチで目にしました。残念ながら日本流？容姿は見かけませんでした。意外とスッキリとし好感が持てました。見通しが良く、交通安全に一役？・・・。街路樹仕立て？

* 第5日目 (7月10日)

今日も快晴。カルンを出てアスタ近郊のカンガインサへ・・・。カルン～ドモツラはチェントヴァリ鉄道でスイスからイタリアへ国境を越えます。

チェトヴァツリとは百の谷の意味だそうで、多くの谷を越えて走る全長 52 km の鉄道。途中、83 か所の鉄橋や高架橋があるそうです。とてもじゃないけれど、数えてられません。

カナルで時間待ちの間、マジョレー湖畔へ。ちらちらと目にする機会はあったのですが、ジックリと眺める時間が無かったので・・・

駅は珍しく地下。発車後、しばらくして地上に・・・。マジョレー湖が綺麗に輝いていました。

徐々に標高を上げ渓谷へ・・・。国境にかかる鉄橋を越えるとイタリア。山肌にかかれた集落を眺めながらユックリと。どの村にも、お馴染みの教会の建物がひときわ高く・・・。

終着駅のドモトツラからはバスでサンヴァインツンへ・・・。途中。多くの古城や廃城を観ながらの移動。かつて、交通の要衝だったとかですが、軍事上よりむしろ通行税収入を得るための関所的な役割が強かったとか・・・。

サンヴァインツンのホテルで見かけました。ゲックジュの生垣です。奈良では見かけたことがありませんが・・・。

「こんな使い方もできるのだ」と、感心。ちなみに、ローリエとは・・・。ゲ



写真上：マジョレー湖

写真下左：地下ホーム / 下右：国境に架かる鉄橋



写真上：Zillstätt 近郊にて
右：Valsugana 付近の教会
左：ゲックジュの生垣
(クスノキ科ゲックジュ属)

ゲックジュの葉を乾燥させた香辛料のこと。

同じホテルの庭で見かけました。オリーブ：アモルトマツの大木です。初めての対面です



写真左：オシロノ松(マツ科モミ属)

／下；同葉

／右：同球果(毬果)

*第6日目 (7月11日)

今日も朝から快晴の中、サンゲインサンの街からチェルヴィニアへ・・・。チェルヴィニアはモンテチェルヴィーノの麓の街。イタリア側から、モンテチェルヴィーノ南壁の鑑賞です。

モンテチェルヴィーノは4477mアルプス最高峰。イタリア語ではモンテチェルヴィーノ、ドイツ語ではマッターホルン。イタリアとスイスの国境に聳える山。スイスは、ドイツ語、イタリア語、フランス語それにロマンシュ語が公用語。同じ山の名前なども国によって・・・。

今回はスイス、イタリア(イタリア語)、フランス(フランス語)、のため、地図や観光案内に使用される文字も・・・。ともかく発音がややこし〜い。良く知りません。スイスではドイツ語が主流のようでした。

途中、チェルヴィニア近郊のブルー湖へ。名前の通り、ブルーの湖面。ここでは、モンテチェルヴィーノが湖面に映り逆モンテチェルヴィーノを観ることができました。時間を利用して、湖畔を一周。湖畔には多くの花が・・・。

残念ながら、アルペン・ローズの花はすでに終わったようでした。写真の花はチェルヴィニアの街で見かけたヤギラン。

ところで今年は、イギリス人登山家のウィ



写真上右：モンテチェルヴィーノ(ブルー湖畔にて)

／上左：カンパヌラ・ロンボイタリス(キョウ科カンパヌラ属)



写真上右：モンテチェルヴィーノ(フランツォン展望台にて)

／上左：ヤギラン(アカハナ科ヤギラン属)

ンパーが初登頂してから 150 年。各地でイベントが行われているそうです。とは言っても、イベントらしきものは・・・。

スイス側から観る、あの魔法使いの帽子に似た山容とは異なり、トッショとした山容でした。目にする機会の少ない容姿。

チェルヴィニアの街では好天のため、急遽、標高 2500mにあるプランメゾン展望台へ・・・ここからはモンテチェルヴィーノが目の前に迫りました。

昼食はチェルヴィニアの街のレストランで・・・ここでは、お店の方が特別にコパテアミテ(友情の盃)を・・・薬酒のようですが、盃には複数の飲み口があり、同時に一緒に飲むのだそうです。

カヴァンツの街に戻って、少々時間があつたので、商店街へ・・・とは言っても長〜い昼休みの習慣。15時30分を過ぎてからにスーパー他数店が店を開けだしました。そのせいか、街



写真上：カヴァンツの商店街

路は閑散・・・静か〜。やはり、チェルヴィニアとは違い、ここも暑〜い。教会前の木陰でしばし休息。

夕食はホテルのレストランの特別室？で・・・隣はパーティション一枚程度で仕切られた結婚披露宴会場。賑やかでした。が、演奏の重低音には参りました。体ごと持ち上げられたり、下げられたり、少々胃の方に。夜明け近くまで続いたそうです。

* 第 7 日目 (7 月 12 日)

今日は、最大のハイライト、モンブラン山群を空から・・・？とは言っても、ロープウェイや展望台からの眺望です。モンブラン(モンテ・ビアンコ)やグランド・ジヨラスなどを真近に・・・。

カヴァンツを出て 1 時間強。イタリアとフランスの国境の街、クールマイユールへ。ここからモンブラン山群へ入ります。

まずは 6 月にオープンしたばかりのスカイウェイ(ロープウェイ)で標高 3466 mのエルブロンネル展望台(イタリア)へ・・・。

ここでしばしアルプスの雄大さに浸りながら素晴らしさを堪能。遠くにはマッターホルンやモンテローザも・・・。



スカイウェイのゴンドラ、乗ってから降りる間に一

写真上左：右奥モンブラン / 上右：スカイウェイとクールマイユールの街並

(エルブロンネル展望台にて)

回転。自分が動くことなく 360 度が・・・

エルブロン展望台から見たモンブラン、手前のモンテ・ブランコ・デュ・クールマイヨール(4765m)やエギュー・ブランシュト(4108m)に隠れるように、右奥の小さくドーム状に見えるのがモンブラン(4810m)。

さらにロープウェイを乗り継いでフランス側エギュー・デュ・ミティ展望台(3842m)へ。モンブランの南壁や眼下に広がる雄大な氷河を堪能。氷河の上には、登山パーティの一行も。

残念ながらエレベータが修理中のため、エギュー・デュ・ミティ展望台の最高地点へは・・・。

下のテラスからのモンブランは、一般に紹介されている山容。丸みを帯びた女性らしい、優しい山容。イタリア側からは切り立った崖に。

アチコチ、風景を求めて歩き回りましたが、なにせ富士山頂より高い所。すぐに息切れ。歳のせいではないようです。

シャモニーに降りるには、深い谷を越える橋を渡って、隣の岩峰にある乗場へ・・・。高所恐怖症の小生にとっては大きな難関。想像よりは幅広・・・。ともかく橋の真ん中を通過して乗り場へ。

この日は、ロープウェイでフランス側のシャモニーへ。ホテルについて、夕食までの時間を利用して散策。是非、見たかったモンブランに初登頂した二人、パルマとツェルの像へ。指差している方向にモンブラン。ついでに市街散策。多くの人たちで賑っていました。



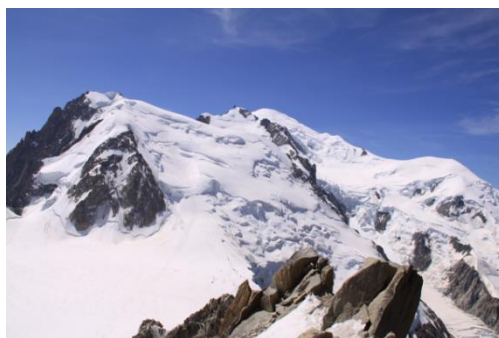
写真上左：三連ゴンドラ / 上右：右奥モンブラン

(三連の国境越えゴンドラにて)

／下左：中央奥モンブラン

／下右：グランドジヨラス 4208m その奥にマッターホルン

(エギュー・デュ・ミティ展望台にて)





写真上左：ポグニ・デュ・ミディ展望台／中：連絡橋／右：パルマとリシュールの像、



写真上左：モンブラン／下右：ポグニ・デュ・ミディ展望台
(シャモニー市街にて)

＊第8日目（7月13日）

写真下：リヴァの集落とブドウ畑とレマン湖

今日はシャモニーからモントルーを経由してインターラーケンへ。朝から曇り空。

最初に訪れたのは世界文化遺産の集落、モントルー近くのラヴォー地区。ラヴォー地区に入る頃には青空が・・・。ブドウ畑の緑とレマン湖の青が美しい風景を醸し出していました。

急斜面を切り開いて造られ



た段々畑のブドウ畑。勿論、ワイン醸造用が主目的。縦に枝を延す垣根仕立て、あるいは棒仕立てと呼ばれる栽培方法。日本では、多雨多湿の気候に適した棚仕立てが主流

写真上右：ツガオー地区サフォランのブドウ畑
／下左・中・右：ツガオー地区ブドウの棒仕立



その後、列車の時間待ち時間を利用して、急遽、シオン城へ・・・。今回、訪ねて見たかった城です。レマン湖に突き出た岩場の上に建てられた城。最も湖に近い部分に工事？用の幕が・・・。少し残念でした。



写真上：シオン城

午後からはモントルーからツガアイジメンまで、ゴールドンパストイン・クラシック列車の旅。

昼食はシャモニーで詠

えられた弁当。開けてビックリ、なんと、おにぎり弁当。漬物とキノコ付。これまた、美味し～い。日本人家族経営の小さなお店へ特注。シャリよし、塩味よしで久しぶりに簡素な日本食の美味しさを堪能。一人前3個。家内から1個。計、4個を平らげました。これにビールがあれば・・・。コーヒーで我慢我慢でした。

さらに、東京から持参したと言う虎屋の羊羹も。食事をしながら車窓風景を楽しみました。



写真上：モントルー郊外の住宅地



写真上左：ヒンター・ライヒェンシュタイン近郊にて
／上右：ツグアイジツン駅、
／右：車窓からレマン湖

ツグアイジツンで下車後、バスでインターラーケンへ・・・。バスの中では、どうやら眠っていたようでした。インターラーケンへは今回で二度目



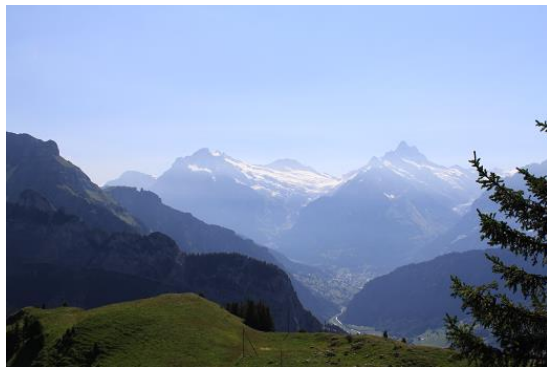
*第9日目（7月14日）

今日も朝から快晴。今日はエンゲフラウ三山（エンゲフラウ 4158m、ムヒ 4107m、アッカー 3970m）が正面に見えるシーニグ・プラッテ展望台 1987mへ。ここには高山植物園があるので、楽しみにしていた所。

麓のヴァルダースヴァイルから展望台まで、登山鉄道（シーニグ・プラッテ鉄道）で標高 1967mまで・・・。1893年に開通。最大勾配 250パーミル。ここからはエンゲフラウ三山やヴェッターホルン 3701mやシュレックホルン 4078m、グリンドェルワルトの街並も・・・。



写真上：シーニグ・プラッテ鉄道



写真上左：ヴェッターホルン(左)とシュレックホルン(右) ／ 上右：エンゲフラウ三山

高山植物園(アルペンガーデン)は、標高約 1950m から 2000m の山岳地帯に約 600 種類もの高山植物が、その植物が本来、生息している環境(岩山、ガレ場、草原など)をできる限り再現した植栽にしているそうです。散策路も整備されていますが、全部を観察するには、二時間ほど・・・。

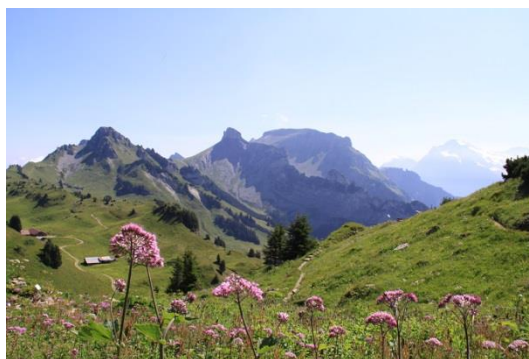
植物園の総面積は 8,323 m²。2008 年に兵庫県神戸市の六甲高山植物園と姉妹提携。

約 1 時間弱の散策でしたが、エーデルワイスをはじめ、普段、なかなか目にするのでできない植物を堪能しましたが・・・。種類と量に、少々、食傷気味に・・・。ハイキング中に見かけた時のような感動は・・・。

入口にある売店でスイスアルプスの高山植物ポットガイド(日本語版)とアルプスの植物(ドイツ語版)を購入。二冊で約 5000 円。多くの写真を撮ったものの、なにせ、植物名板はラテン語(名称)とドイツ語(説明他)。日本語は勿論、無。帰国後、ラテン語の発音に苦労しています。昨日は図書館へ・・・。数十年振りにドイツ語辞書を引っ張り出す等・・・。購入した日本語版が最も活躍？小耳に挟んだ話ですが、最近の異常気象(高温)のため、散水が追っていないのが現状のようです。

ここで、少々、やな気持ちに・・・。散策路の近くに咲いていたエーデルワイス、周囲の地肌が露出。どうやら、写真撮影のため、観光客が足を踏み入れているようです。地肌丸出しの部分には、蕾を付けた株や幼少株が踏まれて残念な姿に・・・。人里離れた場所に咲く高山植物、労りの気持ちで接したいものです。写真愛好家ではないと思いますが・・・。

以下、植物園で見かけた高山植物で、名前が確認できた花の一部を紹介します。



写真上：高山植物園



写真上左：ゲンタウレア・モンタナ(キク科ヤグルマギク属)／中：デジタルリス・グランディフロラ

(ゴマノハグサ科デジタルリス属)／右：ゲンティアナ・ルテア(リンドウ科リンドウ属)



写真上左：ケンタウレア・ネボサ(キク科ヤグルマギク属)

／中：ラティス・オキシエンタリス(マメ科レンリソウ属)

／右：テイアントウス・シルベストリス(ナデシコ科ナデシコ属)

写真左：エーデルワイス

(キク科ウスユキソウ属)

／下・右：ドイツウレ

(マツ科トウヒ属)



写真上左：アスター・アルピナス(キク科アスター属)

／上中：ヒエラキウム・ウィルロスム

(キク科ヤナギタンポポ属)

／上右：アントウサケ・ラクテア

(サクラソウ科サナタネ属)

／下右：セイヨウネズ(ヒナギ科ヒメヤクシ属)



ホルへ戻ってから、インターakenの街へ。中国系？の人達の多いこと。前回、訪れた時とは、様変わり・・・

*第10日目（7月15日）

今日も快晴です。観光最終日。明日はフェリッヒからアムステルダム経由で成田へ・・・。台風の影響もあり、さらに大阪まで飛べるのかどうか、不安ですが・・・



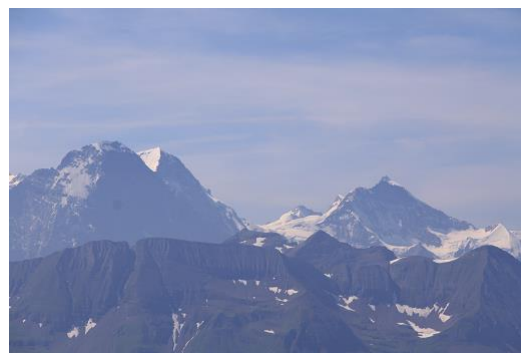
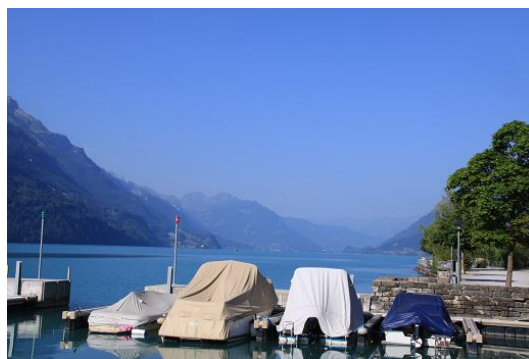
今日はブリエンツから出ている登山鉄道でロートホルン・クム 2266mへ・・・。

この登山鉄道、蒸気機関です。SL です。アプト式登山鉄道で、250パーミルの最大勾配。勿論、SLとしては世界一急勾配。さらに、スイスで唯一、電化されていない鉄道だそうです。機関車自体、勾配に併せて傾斜。ボイラーを水平に保つために考案されたそうです。その上、日本の大井川鉄道と姉妹鉄道。

頂上からは、エンゲフラウ三山が、昨日のシーゲ・ブ



写真上左・右：ブリエンツ・ロートホルン鉄道
／下：ブリエンツ湖(ブリエンツにて)



写真上左：ロートホルン・クムからの眺め / 上右：エンゲフラウ三山(ロートホルン・クムにて)

ラッテ展望台とは異なり、Mヒの存在が少々・・・。前回、訪れたグリンドルワルトから登る、フィスト展望台からの眺望を思い出しました。

この山にも、かつての造山活動の証しを見ることができました。左下から押し上げられたのか、右下から競り上がったのか？



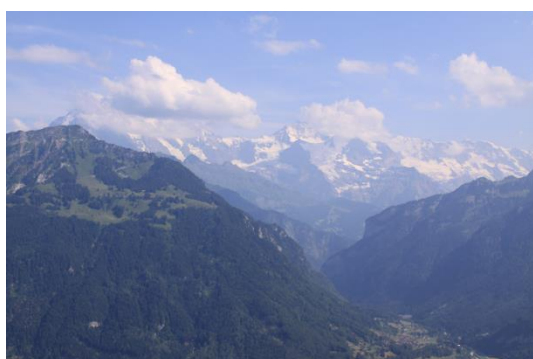
写真上：ブリエンツ・ロートホルン鉄道にて
／右：ロートホルン・クムにて

民家は、登山

鉄道車窓から撮影。集落全体が、急斜面にあるため、全体に小さな庭を持つ住宅といった雰囲気。隣との境界にはフェンスらしきものは・・・。法面即境界？

ブリエンツの街・・・ブリエンツ湖畔の街ですが、木彫りの街としても有名だそうです。バウ制作学校やヨーロッパで唯一の木彫学校(勿論、木彫の技術を学ぶ専門学校)があるそうです。ブリエンツの街を散策すれば、精巧な細工を施した木工製品などが見学できたかも・・・。

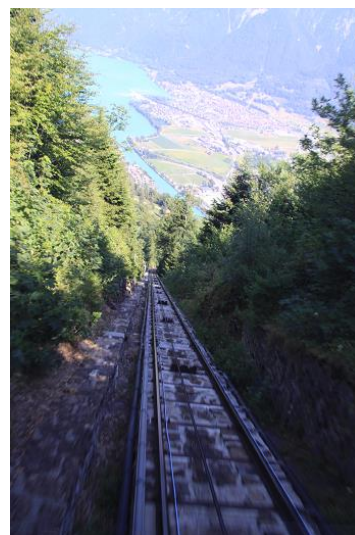
インターラーケンに戻って、今度は、ホテルから歩いて10分ほどのところにある、乗場からケーブルカーでハーダー・クム展望台へ・・・。このケーブルカーもかなりな急斜面に造られていました。



写真上左：エンゲワラ三山(ハーダー展望台にて)
／上右：ハーダー・インターラーケン駅
／右：ハーダーケーブルカーにて～軌道

眼下に美しいブリエンツ湖、トゥーン湖インターラーケンの町、正面にはエンゲワラ三山を眺望することができました。夕方のせいもあって、三山には雲が・・・。残念。そして、この展望台の名所が新しく・・・。

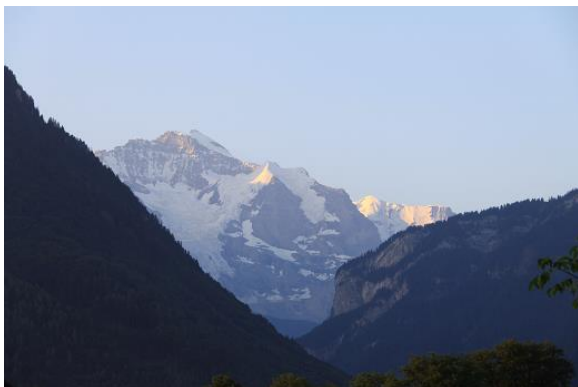
これまでの展望ポイント先に延びる約55m²のウッドデッキ。ブリエンツ湖とトゥーン湖の間にあたる位置なので、“ツヴァイ・ゼーン・シュテグ(二つの湖の橋、Zwei-Seen-Steg)”と呼ばれている展望台。空中に張り出した、天空の橋といった雰囲気の展望デッキ。高所恐怖症、最後のチャレンジ・・・。デッキ真下は樹木で覆っていたので、恐怖心もそれ



ほどでも・・・さすがに周辺の手摺までは・・・。

ところで、今回の用語の中で多く使用した、「カム」ですが・・・。円錐形の山頂のことだそうです。

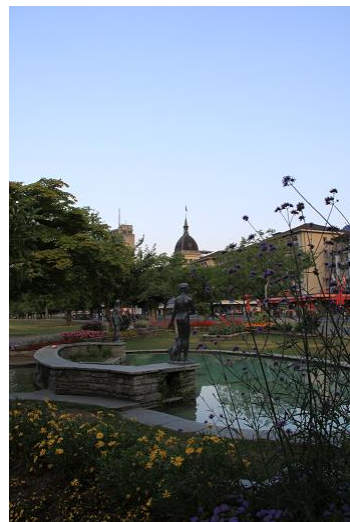
今朝は少々早起きしてホテルから徒歩1分？ほどのヘエマッテへ・・・。早朝なので、人通もほとんどなく、たま



写真上：早朝のエンゲフラウ

にジョギングを楽しむ方が通り過ぎる程度。しばらくは静寂を楽しみました。

／右：早朝のインターレーケン



早起きの目的は・・・。エンゲフラウの頂上が朝日で輝く姿をみたくて・・・。光の角度が今一つでした。もう少し手前、もう少し北側からの光であれば・・・。さらに冬、雪で覆われていれば・・・。少々、贅沢な・・・。

ヘエマッテにはマロニエ(西洋ナギ)の街路樹が・・・。スイスに入って、よく目にした景色です。その他、色とりどりの花で飾られていました。



写真上左：マロニエの街路樹



／上右：ヘエマッテにて

～完～

2015年8月20日